

平成30年度 動物愛護教室実施状況

保健所	実施日	場所	講師	参加者		実施方法及び内容	事業を通じて気づいたこと及び問題点等
				学年等	人数		
岐阜保健所 (本巣・山県センター)	6月28日	羽島市立正木小学校	岐阜保健所 今尾 幸穂 (関係保健所)	6年生	152	「保健所の仕事と狂犬病についての紹介」 岐阜保健所 衛生技術員 下條信吾 「公衆衛生を守る」ことについてのわかりやすい説明。 「狂犬病」が現存する事実とその怖さを解説。 (日本が行っている対策について紹介) 「犬の生態について」 関係保健所 獣医師 今尾幸穂係長 犬の特性や能力について解説 飼うことについての責任と義務について 岐阜県動物愛護推進員による犬のデモンストレーション「しつけ」や「ふれあい」を紹介 参加者と犬のふれあい	学校の施設を利用する際どうしても床が滑りやすいことがある為、犬の実演等を補助するために場所によっては滑り止め用のカーペット等が必要と感じた。 小学校の高学年から中学生ぐらいの範囲で開催したいが各市町の教育委員会に独自で依頼してもなかなか集まらない。 推進員の協力を依頼するにも同伴する犬の為に気候が穏やかな時ならばいいがどうしてもそうならない場合がある。 毎年年間スケジュールに組み込んでもらえるように県から依頼をしてもらうことはできないだろうか。
西濃保健所 (揖斐センター)	11月22日	神戸町立下宮小	西濃保健所	6年生	29	講義「いのちの授業」 内容:保健所の業務について 犬の正しい飼い方について 猫の適正な飼育方法について 野良猫への餌やりについて 講師:西濃保健所 宮川技術主査 稲葉衛生技術員 方法:パワーポイントを用いた講義及び猫の快適な部屋について考えるグループワーク。	・小学生に興味を持って聞いてもらうために、猫の快適な部屋について考えるグループワークを実施した。実施後の感想にも記述がたくさん見られ、印象に残ったと思われる。 ・犬の正しい飼い方の話(狂犬病予防注射を年1回しなければならぬ等)や、野良猫へ餌やりをやめてほしいという話はストレートに伝わったようで、普及啓発のための愛護教室実施の重要性を感じた。
関係保健所	12月13日	関市立富野中	関係保健所 獣医師	全校	50	パワーポイントを用いて下記の内容の座学を行った。 (1)獣医師の話(獣医師) ・獣医師の仕事について ・動物病院の診療について ・家畜の命について (2)保健所の話(関係保健所) ・保健所の仕事について ・適正飼養について	・獣医師会と共同で実施した。 ・小規模な学校であったため、全校児童を対象として行った。 ・講義時間が予定の時間を大幅に超えてしまい、質問の時間をとることが出来なかった。時間配分に注意する必要がある。 ・講義中に生徒に質問すると、様々な意見が出てくる等大きな反応が返ってくるが多かった。 ・「動物病院の診療について」において、写真を多く用い、また、実際の症例を使って診療の様子等について講義していただいたことで生徒がより興味をもつ内容となっていた。 ・狂犬病について知っている等、事前に講義内容について学習している様子が見られた。 ・毎年、動物愛護教室実施のため案内文書により募集をかけているが管内の学校からの希望はほとんどないため実施が難しくなっている。今後は確実に実施できる学校や方法について考えていくことが課題であると思われる。
郡上センター	11月21日	郡上市立明方小	獣医師	5年生	24	1. 保健所からの話 保健所の動物愛護管理業務の内容や動物愛護教室の目的について 2. 動物病院獣医師による犬と猫の接し方についての講義 ・犬が人と出会った時の犬の行動や心理、接し方について ・猫の接し方について 3. 犬とのふれあい 獣医師とボランティアの指導のもと、3匹の犬と児童による犬とのふれあいを通じ、犬の正しい接し方や気を付けることなどを学ぶ 4. ボランティアからの話 ボランティアスタッフによる動物介在活動について 5. 動物愛護センターの紹介 動物愛護センターの動物愛護管理業務の内容について	平成26年から動物愛護教室の講師を依頼している動物病院の獣医師に協力を依頼した。 獣医師としての経験やJAHAのパピーケアスタッフ養成講座の受講、獣医師会開催「命の授業」の講師経験があり、児童にわかりやすい講義であった。 児童は、講義中にうなずきながら話を聞く様子が見られ、講師から児童へ質問を行った際は、積極的に回答をしていた。 犬を連れて飼い主と出会った時の、犬の触り方について講師から説明を受けた後、児童に実演をしてもらい、聴診器を使って犬の心臓の音を聞いてもらった。児童の心臓の音と犬の心臓の音の聞き比べも行った。 ふれあいの時間では、緊張しながら犬と接する様子が見られたが、記念撮影の際に、犬を抱っこする生徒を募集したところ、多くの生徒が抱っこを希望していた。 予定スケジュールどおり終了することはできたが、講義の時間が予定よりオーバーしたため、自由にふれあえる時間をとることができなかった。授業終了後に、児童が犬を抱っこしたり、触ったりする様子が見られたため、自由にふれあえる時間を設けるよう検討したい。 動物愛護教室後に児童へアンケートを実施したところ、保健所での譲渡について知っている児童が過半数見られた。 また、動物愛護センターを知っている児童は一人もみられなかったが、アンケートでは、動物愛護センターへ行きたいと思う児童が多く見られた。 「保健所では犬や猫が殺されていることを知った」や「同じ大切な命だから、最後まで責任をもって飼いたい」などの感想があり、動物の適正飼養や命の大切さについての普及啓発を図るためには、今後も動物愛護教室を開催する必要がある。

可茂保健所	6月22日	美濃加茂市立蜂屋小	民間法人美濃加茂市教育委員会 美濃加茂市役所土木課 岐阜大学学生 可茂保健所	1年生	61	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市役所 職員よりヤギ除草についての説明、岐阜大学生によるヤギについてのクイズを実施した。また、ヤギさん除草隊のピンパッチを配布した。 ・説明後、連れてきたヤギ8頭を用い2クラスに分かれて順にふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も開催した事業で、今年度は美濃加茂市の教育委員会の協力も得られ、共同開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギが怖いと感じる児童もいたが、それぞれで積極的にヤギと触れ合うことが出来た。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・すべての活動を1時間の間に行わないといけないため、全体的に時間が足りなかった。特に心音は一人ずつしか聞けないため、一人一人は10秒程度しか聞けず、児童と講師の会話がほとんどできなかった。 ・児童たちは全てを理解できたとは思わないが、講師達の話をよく聞いており、動物への関心を高めるために非常に有用な事業であったと思われる。 ・休み時間に他学年の児童も触れ合うことが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。
	6月25日	美濃加茂市立太田小	同上	なかよし1年生 2年生 3年生	206	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市役所 職員よりヤギ除草についての説明、岐阜大学生によるヤギについてのクイズを実施した。また、ヤギさん除草隊のピンパッチを配布した。 ・説明後、連れてきたヤギを用い、中庭全体を開放する形で自由にふれあい活動を行った。 ・希望者は聴診器を用い、ヤギとウサギ、自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太田小学校では中庭を柵で区切って開放することで、自由にヤギとふれあうことが出来た。 ・太田小学校で飼育されているウサギも一緒に中庭に連れてきてふれあいを行った。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギが怖いと感じる児童もいたが、それぞれで積極的にヤギと触れ合うことが出来た。 ・ヤギとウサギ、児童自身の心音を聞き比べることで、動物も人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことは動物に直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・すべての活動を1時間の間に行わないといけないため、全体的に時間が足りなかった。特に心音は一人ずつしか聞けないため、一人一人は10秒程度しか聞けず、児童と講師の会話がほとんどできなかった。 ・当日は非常に熱く、中庭に日影が少なかったため、動物や人間の健康状態に対する配慮が足りていなかったため、特にウサギはぐったりとしてしまっていた。日陰を作る、動物も交代で休憩する等の対策が必要であると思われた。 ・教員自体もウサギの取り扱いができない者が多いため、児童だけでなく教員に対する教育も必要であると考えられた。 ・中庭全体を開放する形でふれあいであったため、教員や講師の目が行き届かなかった。当日、児童が蜂に刺される事故もあったため、事前の対策が必要であると考えられた。
	9月26日	可児市立帷子小	民間法人可茂保健所	1年生	109	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態や触れ合い方について説明を行った。 ・説明後、ヤギを用い3クラスに分かれて順にふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可児市帷子地区センターで活動するヤギさん除草隊のヤギを用い、地域のヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギとのふれあいが初めての児童もいたが、それぞれで積極的にヤギと触れ合うことが出来た。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・すべての活動を1時間の間に行わないといけないため、全体的に時間が足りなかった。特に心音は一人ずつしか聞けないため、一人一人は10秒程度しか聞けず、児童と講師の会話がほとんどできなかった。 ・児童たちは全てを理解できたとは思わないが、講師達の話をよく聞いており、動物への関心を高めるために非常に有用な事業であったと思われる。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。
	9月27日	美濃加茂市立伊深小	民間法人美濃加茂市教育委員会 岐阜大学学生 可茂保健所	1年生 2年生 特別支援学級	31	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明、岐阜大学生によるヤギについてのクイズを実施した。 ・説明後、連れてきたヤギ8頭を用いふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市の教育委員会の協力の下、共同開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・児童数が少ないため、ヤギがどんな草をよく好んで食べるのか観察をすることやヤギとのふれあい、心音の聞き比べなど一人当たりの体験時間を長めにとることが出来た。 ・学校側の柔軟な対応で休み時間に他学年の児童も触れ合うことが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。
	10月4日	美濃加茂市立古井小	民間法人美濃加茂市教育委員会 岐阜大学学生 可茂保健所	1年生 2年生	246	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明、岐阜大学生によるヤギについてのクイズを実施した。 ・説明後、連れてきたヤギを用いふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市の教育委員会の協力の下、共同開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・児童数が多いため、心音の聞き比べなどの体験時間が流れ作業となってしまったが、児童全員が体験することができた。 ・学校側の柔軟な対応で休み時間に他学年の児童も触れ合うことが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。

	10月15日	美濃加茂市立下米田小	民間法人美濃加茂市教育委員会 岐阜大学生可茂保健所	4年生	62	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明、岐阜大学生によるヤギについてのクイズを実施した。 ・説明後、連れてきたヤギを用いふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市の教育委員会の協力の下、共同開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・児童数が少ないため、ヤギがどんな草をよく好んで食べるのかの観察や、ヤギとのふれあい、心音の聞き比べなど一人あたりの体験時間を長めにとることが出来た。 ・学校側の柔軟な対応で休み時間に他学年の児童も触れ合うことが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。
	10月17日	美濃加茂市立山上小	民間法人美濃加茂市教育委員会 可茂保健所	1年生 2年生	46	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明、ヤギについてのクイズを実施した。 ・説明後、連れてきたヤギを用いふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市の教育委員会の協力の下、共同開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・児童数が少ないため、ヤギがどんな草をよく好んで食べるのかの観察や、ヤギとのふれあい、心音の聞き比べなど一人あたりの体験時間を長めにとることが出来た。 ・学校側の柔軟な対応で休み時間に他学年の児童も触れ合うことが出来た。 ・山之上こども園の園児もヤギと触れ合うことが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。
	10月25日	美濃加茂市立加茂野小	民間法人美濃加茂市教育委員会 美濃加茂市土木課 可茂保健所	1年生 3年生 特別支援学級	281	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明、岐阜大学生によるヤギについてのクイズを実施した。 ・説明後、連れてきたヤギを用いふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけ、犬猫の飼い主の方へのリーフレット等の配布を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市の教育委員会の協力の下、共同開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・児童数が多いため、心音の聞き比べなどの体験時間が流れ作業となってしまったが、児童全員が体験することができた。 ・学校側の柔軟な対応で休み時間に他学年の児童も触れ合うことが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。
	10月26日	八百津町立和知小	民間法人八百津町総務課管財係 八百津町総務課広報行政係 可茂保健所	1年生	27	<ul style="list-style-type: none"> ・民間法人代表よりヤギの生態、触れ合い方の注意点についての説明を実施した。 ・説明後、連れてきたヤギを用いふれあい活動を行った。 ・聴診器を用い、ヤギと自分の心音を聞き比べた。 ・保健所より、動物の適正飼養の説明、手洗いの励行を呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八百津町役場総務課の協力の下、和知小学校の、地域を見て回る授業の一環として開催した。 ・美濃加茂市内で活動するヤギさん除草隊の活動の普及啓発にもなり、ヤギに対して親しみを持ってもらえた。 ・ヤギと児童自身の心音を聞き比べることで、ヤギも人も同じ「いのち」であることを実感してもらえた。 ・心音を聞くことはヤギに直接触らないため、アレルギーのある児童や動物が苦手な児童でも行えるのではないかと考えられた。 ・児童数が少ないため、ヤギがどんな草をよく好んで食べるのかの観察や、ヤギとのふれあい、心音の聞き比べなど一人あたりの体験時間を長めにとることが出来た。 ・今後も関係機関が協力・連携し、事業を継続していくことでさらなる効果が期待できると思われる。 ・八百津町議会の加藤良治議員も視察に訪れていた。
東濃保健所	10月11日	多治見市立養正小	東濃保健所	2年生	72	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のモニターにパワーポイントを投影して、講義を行った。 ・今日の給食を例に、食べ物从何からできているか説明し、食べることは命をいただくことであり、すべての動植物が食物連鎖でつながっていることを説明。 ・子供達に、自分の心臓に手をあてて生きていることを考えてもらい、ウサギを例に命の大切さを説明(動物愛護内容)。 ・陶史の森(土岐市)でウサギを一羽借りて、心音を聞いてもらった。 ・学校の理科室から聴診器を借りることができたので、10本ほど使用して、生徒全員にウサギの心音を聞いてもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> <良かった点> ・質問や疑問を投げかけると一生懸命答えてくれて、その答えを拾いつつ話をすすめると興味を持って聞いてくれた。 ・最近の子供たちは身近に動物が居ないことも多く、動物がいると子供たちの反応が格段に良くなる。 ・数日後、子供たちからお手紙が届いた。食べ物と命について考えてくれた感想がつけられていた。 <問題点> ・講義時間の延長 ・低学年だったため、パワーポイントの一場面毎に敏感に反応して騒がしくなる場面が多かった。先生がその都度静かにするよう声をかけるので、その分時間がかかり講義が長引いた。 ・備品不足(聴診器) ウサギの心音を聞いてもらうのにこちらからは聴診器1本しか持参できなかったが、校長先生の機転で理科室の聴診器を借りることができた。68人が10本を回して使って15分ほどで心音を聞き終えた。
	11月16日	土岐市立濃南小	開業獣医師	1年生 2年生	27	<ul style="list-style-type: none"> ・開業獣医師により、スライドを用いて、うさぎの生態についての説明や、犬猫との違いを説明した。うさぎに対する接し方も説明があった。 ・心音拡張装置を使用し、人やうさぎの心音の聴き比べを行なった。 ・5~6名のグループに分かれ、開業獣医師の指導をうけながら、うさぎとの実際のふれあいを行なった。 ・児童たちはうさぎを抱いたり、聴診器を用いて自分自身やうさぎの心音を聞き比べていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎ飼育者1名。ほとんどの生徒がうさぎに触れあつた経験がある学校であった。うさぎの歯が28本あるということに驚いていた。 ・うさぎの足、ジャンプ力、1日に心臓は何回動くのか、等の興味深い質問があげられた。 ・うさぎに接したことが多かったためか、うさぎの扱いが優しく感じられた。

恵那保健所	11月29日	中津川市立加子母小	獣医師	4年生	<p>1:生き物の命についての講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心音計を使い人とウサギの心音の聴き比べ ・パワーポイントにてウサギの生態についての講話 <p>2:4～5人の5グループに分かれ、直接ウサギを観察。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの観察(目、耳、歯、肢等) ・ウサギの抱き方 ・聴診器を使い心音を聴く。 <p>3:質疑</p>	<p>動物病院院長による、ウサギをモデルに動物の「命」、ウサギの生態や適正飼養についての講話を行った。</p> <p>生きているとは？ウサギと人の心音を聴くことで、同じ生き物として、動物の命の取扱いについて、言葉の通じない動物の気持ちを汲み取ることができるようになること。そのためには、ウサギの管理方法(餌の種類・与え方・抱き方等)について理解を深める講話となった。</p> <p>また、東濃獣医師会の協力のもと、ふれあい教室を行い獣医師5名(開業4名保健所1名)が、各グループに分かれ、実際のウサギを使い、生徒自身でウサギの心音と自分の心音の聴き比べや、抱き方等ウサギの取り扱いについて学んだことを実践した。</p> <p>当校(加子母小)では現在ウサギを1頭飼育しており、餌やり、掃除の管理は行っているが、ウサギは慣れておらず、抱き上げる等のふれあいの経験はなく、獣医師会が、よく慣れたウサギを連れてきたことで、生徒もウサギとふれあうことができ、今後は「慣らす(ふれあう)」ことも考えた飼育管理をすることで、よりウサギの気持ちがわかるようになっていくことが期待される。</p>
飛騨保健所(下呂センター)	12月18日	私立中山保育園	ボランティア	園児	<p>1. 犬猫とのふれあい方教室 飛騨保健所 井口吉明 飛騨保健所下呂センター 北畑敏彦 ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の室内運動スペースで実施した。 ・パワーポイントを用いて、動物とのふれあい方を説明した後、4グループに分かれ、それぞれグループ内の動物とふれあいを行った。(1グループに動物1頭を配置した。犬3頭、猫1頭で行った。) ・犬猫に触れさせることで、生き物の温かさ、重さを体感させ、ぬいぐるみとは異なり、命があることを説明した。また、動物も、人間と同じ感情を持っていることを伝え、自分がされて嫌なことは、動物にもしないこと等動物を思いやる気持ちを育む機会を設けた。 <p>2. 食物と動物のつながりの話 飛騨保健所 井口久美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いて、食物と動物のつながりについて問いかけ形式で講義。 ・オムライスやハンバーグなど食べ物は何かからできているか問いかけながら考えさせた。食べ物の先には命があり、それを食べ物にするまでに、様々な人の動きがあることを伝えた。 ・自分たちの体は、食べ物になった動物達の元気をもらって生きているため、食べ物を大切に、残さず食べるよう伝えた。 ・前半に触れ合った犬猫や家畜や人も同じ命であることを伝え、命をもらって生きていることなど命について考える機会を与えた。 	<p>【犬猫とのふれあい教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬猫に興味を示し、積極的に触れることを希望する子供が多かったが、怖がる子供も数名いた。 ・犬猫を怖がる子供に対しては、職員が丁寧に説明し、ゆっくり触れさせることで、慣れてきた様子であった。 ・グループ間の移動は自由であったため、最終的にはすべての子供が、4頭の犬猫と触れ合うことができた。 ・5～6歳児(年長)は、時間内で落ち着いて順番を待つことができていたが、4～5歳児(年中)は、後半にやや気が散る子が出てきたため、発達の段階で、時間配分等考慮する必要があると感じた。 ・事前に、動物アレルギーの有無について確認している。 <p>【食物と動物のつながりの話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは、スライドで説明している際も、話をよく聴いており、クイズ形式の問いかけにも元気に返事をしていた。 ・対象となった4～6歳児の中では、卵や肉、家禽や家畜からできていることを知らない子供も、数名いた。 ・今回に内容を聴いて、食べ物を大切に残さず食べるよう問いかけに対して、大きな「はい」という返事がもらうことができた。 ・犬猫と家畜も同じ命であるとの話では、真剣な表情で聞いている子供が多かった。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総じて活気があった。職員が話をしている際は、しっかり聞きよく理解している様子であり、問いかけに対しても、大きな返事をしており反応がよかった。 ・感受性が豊かで柔軟な思考の幼児期に、動物とのふれあいや命について考える機会を設けたことは、大変有意義であると感じた。 ・保育園は、小中学校に比べ行事スケジュールに余裕があることが多いため、今回の開催依頼や準備の相談等も円滑に行うことができた。 ・今回開催した保育園では、昨年度からの開催であったが「来年度もぜひ実施してほしい」との要望を受けた。